

■**徳川（一橋）治済**
とくがわはるさだ
徳川吉宗没・1751＝**江**戸幕府第8代将軍・徳川吉宗の子徳川宗尹の四男に生まれる。母は細田時義の娘・由加。幼名は豊之助。

江戸幕府第8代将軍徳川吉宗が、将軍後継が絶えないように、三男の宗武(田安家初代)、四男の宗尹(一橋家初代)へそれぞれ江戸城内に屋敷を与えたことに始まり、吉宗の長男で第9代将軍となった家重が、次男の重好(清水家初代)へ屋敷を与えたことで“御三卿”と呼ばれるようになった。

長兄松平重昌は誕生前に福井松平家を継いでおり、
宝暦事件・・・1758＝7歳：三兄重富も福井松平家を継いだため、豊之助が一橋家の世子となり、徳川を称する。

大岡忠光没・1760＝9歳：

・・・1762＝11歳：将軍家治の子家基が誕生。元服、従兄弟である将軍徳川家治より偏諱を賜り治済と名乗り、民部卿となる。

加賀千代句集1764＝13歳：従三位左近衛権中将に叙任される、**一橋家の家督を継ぎ、**

明和事件・・・1767＝16歳：**京極宮公仁親王の娘寿賀宮を正室に迎える。**
久留米藩工事1768＝17歳：御三卿筆頭田安家の六男が格下の伊予松山藩の養子に出される不可解な縁組があり、
・・・1769＝18歳：

御蔭参流行・1771＝20歳：家基に御目見えし、**老中首座松平武元に接近。**
田沼意次老中1772＝21歳：
大原騒動・・・1773＝22歳：***長男豊千代(家斉)が誕生するや、将来将軍にすべく画策を始めたらしく、長崎奉行夏目信政に続いて、田沼意次の弟で、大きな架け橋になっていた意誠が不審死、前者については、オランダ商館長が毒殺の疑いと記し、意誠の没後は、画策を実行しやすいよう一橋家生え抜きで人事を固めて行き、**
解体新書・・・1774＝23歳：**表向きは松平武元、田沼意次により、次期将軍候補田安(松平)定信を白河藩の養子に出してしまう。**
黄表紙始・・・1775＝24歳：次期将軍とされる家基は、この頃から鷹狩りを熱心にするようになる。**豊千代を将軍家治に御目見えさせると、側用人をして、島津重豪家老と協議させ、**
雨月物語刊・1776＝25歳：**豊千代と、島津重豪の娘茂姫との結婚を実現、徳川家と結びつこうとする有力藩主島津重豪も味方にし、**
・・・1777＝26歳：全国で災害が多発し打毀しや強訴が広がるなか、一族に厳重な儉約令。**進歩的開国派として田沼意次に通じる島津重豪に表向き同調し、米倉昌晴を若年寄に、末吉利隆を幕府徒頭にすることに成功。**

汐船蝦夷来 1778＝27歳：
源内獄中死・1779＝28歳：ついに、***日程や関係者の配置等綿密に計画、徳川家基の好きな乗馬での落馬事故に見せかけて、亡き者にするに至る。さらに、自らが御所になろうと、後桃園天皇の突然死を演出、後継が定まっていなかったことを理由に、妻と関係の近い閑院宮のわずか9つの子を光格天皇として即位させてしまうのである。本来なる可能性がなかった傍流というだけでも、将軍家治から家斉と全く同じ構造であることに驚かざるを得ない。**

・・・1781＝30歳：参議に補任。
田沼意次が幕政を指揮する中、一橋家には意次の弟意誠や、甥意致が家老となり、一橋家家臣とも縁戚関係を築いていたが、意次の開国構想に抵抗する保守派の筆頭として、将軍職を息子の家斉に継がせようと、様々な策を講じるようになる。

田沼意知刺殺1784＝33歳：**若年寄になってまもない田沼意知が、江戸城中で、突然佐野政言に斬りかかれ、その傷がもとで死去するという事件が起き、その際にもにいた幹部らの動きを見れば、佐野政言が切腹になっただけでなく、一家もろとも自害させてまでして、仕組んだものであった。**

田沼意次失脚1786＝35歳：***家治が亡くなり、家斉が11代将軍に就任すると、意次を罷免させ、当主不在の明屋敷になっていた御三卿田安徳川家には五男の斉匡を新たな当主として送り込み、**

寛政改革始・1787＝36歳：**自ら仕向けた江戸の打ちこわし頻発を利用して、遺った田沼派の人物横田準松も失脚させると、田沼に関する史料をほとんど抹消してしまう一方、大奥を通じて松平定信を老中に昇進させ、まさに’悪名高き意次’から’善名の定信’への転換を演出、定信は、意次の政策をすべて否定し、手掛けていた事業も中止、自らは絶対的黒幕として、冷酷非情な粛清を続けるが、**

・・・1788＝37歳：**家斉が治済を”大御所”にしようと幕閣に持ちかけるも、光格天皇が実父閑院宮典仁親王に太上天皇の尊号を贈ろうとしたことに反対する松平定信(尊号一件)は、同じことと否定して一矢報いようとするが、**

初の横綱・・・1789＝38歳：前年に意次が失意のなか死去したのを見計らうように、意次の僚友で、意知の岳父になっていた老中松平康福も死去しているのも、あまりのタイミングの良さであるが、この他にも、経緯を知る立場にあった幕閣の人物が次々と死去しているのを見ると恐怖すら覚える。**「従来定信の仕事の一つとされてきた「寛政重修諸家譜」は、治済が自らが行ってきた陰謀を隠し、また、自らが陰謀の対象になることを避けるべく、全ての大名や旗本についての家譜を作成すべく発案したものを、定信が桑原盛員を責任者に編集開始したもので、**

混浴禁止・・・1791＝40歳：権中納言となる。
松平定信引退1793＝42歳：意次の相良領も奪ってしまう。**定信は免職になってしまうも、そのまま引き継がれ、**
プロト来航・1796＝45歳：
古事記伝・・・1798＝47歳：**家斉の子、孫である敦之助が御三卿清水徳川家の新たな当主になったことを皮切りに、**
蝦夷地直轄始1799＝48歳：従二位権大納言に叙任される。**一橋家の家督を六男斉敦へ譲って隠居、幕府から賄料と年金を受ける。**
伊能測量始・1800＝49歳：この年まで、9男4女が誕生している。**次男治国の子である斉朝が尾張藩主になり、**
青洲麻醉手術1805＝54歳：
高田屋拿捕・1812＝61歳：**「寛政重修諸家譜」1530巻が完成。以後、一橋家の幕府支配を確立していくも、**
黒住教・・・1814＝63歳：

水野忠成老中1818＝67歳：剃髪して穆翁と号す。同年、袈袋着用を勅許される。
群書類従完結1819＝68歳：**父が亡き者にした家基の霊に苦しめられ眼病になったという家斉は、この年、田沼意正を若年寄に取り立て大名として屋敷を与え、相良領も返した。**

・・・1820＝69歳：従一位に叙せられる。

シボム来日・1823＝72歳：
シボム鳴滝塾1824＝73歳：**家斉の子である斉順が紀州藩主となり、自らの血筋が御三家や御三卿へ行き渡っていくなか、**
異国船打払令1825＝74歳：准大臣にのぼる。**家斉が田沼意正を側用人とするのを見ながら、**
日本外史・・・1827＝76歳：**没した。墓所は東叡山寛永寺で将軍と同等扱い。**
翌年に内大臣、翌々年には太政大臣を追贈される一方、田沼家は再興するのである